

昭和から平成。そして、新たな時代へ語り継ぎたい物語。 知られざるヒロインたちの感動の実話、遂に映画化!



怒った。泣いた。笑った。そして、生きた。

1944年の東京。20代を中心とした若手保母たちが、国の決定を待たず、日本で初めて園児を連れての集団疎開を敢行した、いわゆる「疎開保育園」の事実はあまり知られていない。これは、幾多の困難を乗り越え、託されたいのちを守りぬこうとするヒロインたちの奮闘を描いた真実の物語。大切ないのちを未来へつなぐことを願い、毎日在必死で戦った保母たち。強い信念で時代を切り拓いていった彼女たちの生き様は、時を越えて今を生きる我々を魅了し、大きな勇気と希望を与えてくれる。主演は、目覚ましい活躍を続ける実力派女優・戸田恵梨香と、女優・歌手としてフィールドを広げる大原櫻子。また、今後の映画界を牽引する期待の新鋭俳優たちが共演し、林家正蔵、夏川結衣、田中直樹、橋爪功ら日本を代表する俳優たちが脇を固める。メガホンをとるのは『ひまわりと子犬の7日間』の監督であり、長年山田洋次監督との共同脚本、助監督を務めてきた平松恵美子。



STORY

戸越保育所の主任保母・板倉楓は、園児たちを空襲から守るため、親元から遠く離れた疎開先を模索していた。最初は反発していた親たちも、子どもだけでも生き延びて欲しいという一心で保母たちに我が子を託すことを決意。しかし、ようやく見つかった受け入れ先はボロボロの荒れ寺だった。

幼い子どもたちとの生活は問題が山積み。それでも保母たちは、子どもたちと向き合い、みっちゃん先生はオルガンを奏で、みんなを勇気づけていた。そんな願いをよそに1945年3月10日、米軍の爆撃機が東京を襲来。やがて、疎開先にも徐々に戦争の影が迫っていた――。

太平洋戦争末期、53人の子どものいのちを守った保母たちがいた。

誰もが自分のことで精一杯だった時代、彼女たちを突き動かしたものは一体なんだったのか?



あの日のオルガン

anohi-organ.com



2018年/119分/カラー/ビスタ/5.1ch © 2018「あの日のオルガン」製作委員会

映画「あの日のオルガン」山梨県上映会

2020年2月9日(日) **山梨県立文学館講堂**

①10:30～ ②13:30～ 2回上映(30分前開場・全席自由)

前売券 一般・シニア・大学生 1,100円 当日券 一般・シニア 1,500円/大学生 1,300円/小中高生 800円

【主催】 映画「あの日のオルガン」山梨県上映実行委員会

【上映協力団体】 山梨県保育協議会 日本保育協議会山梨県支部 公益社団法人山梨県私学教育振興会 山梨県愛育連合会
公益社団法人山梨看護協会 山梨県民生児童委員協議会 国際ソロブチミスト甲府 山梨県教職員組合 山梨県高等学校・障害児学校教職員組合

【問合せ】 事務局 ☎ 090-3336-6684 (深澤) / 文学館 ☎ 055-235-8080